

DRUG

INFORMATION

2004 No. 22

岐阜大学医学部附属病院薬剤部  
医薬品情報管理室（内線7083）

平成16年12月3日発行

## 目 次

- 1 . 医薬品の採用・採用中止について ..... 1  
- 平成 16 年 12 月 2 日の薬事委員会結果 -
- 2 . 新規院内処方医薬品について ..... 3

Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。

<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/web/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。

[di8931@cc.gifu-u.ac.jp](mailto:di8931@cc.gifu-u.ac.jp)

医薬品の採用・採用中止について - 平成 16 年 12 月 2 日の薬事委員会結果 -

院内新規試用医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
アンカロン錠(塩酸アミオダロン)	100mg/錠	不整脈治療剤	サノフィ・サンテラボ
ベイスン OD 錠(ボグリボース)	0.2mg/錠	糖尿病食後過血糖改善剤	武田
ムコダイン錠(カルボシステイン)	500mg/錠	気道粘液調整・粘膜正常化剤	杏林
六君子湯エキス顆粒	2.5g/包	漢方製剤	ツムラ
ソフラチュール帯(硫酸フラジオマイシン)	10×30cm/枚	化膿性疾患用剤	アベンティスファーマ
キロサイド N 注(シタラピン)	400mg/20mL/管	急性白血病治療剤	日本新薬
レミケード点滴静注用(インフリキシマブ)	100mg/V	抗ヒトTNF モノクローナル抗体製剤	田辺

院内採用医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
ケテック錠(テリスロマイシン)	300mg/錠	ケトライド系経口抗菌剤	藤沢
ニコチン酸アミド散ゾンネ(ニコチン酸アミド)	100mg/g	ニコチン酸アミド製剤	鳥居
カデックス軟膏(ヨウ素)	[0.9%] 40g/本	褥瘡・皮膚潰瘍治療剤	鳥居
ベリプラス P コンビセット	3mL セット	生理的組織接着剤	ZLB ベーリング
エポジン注シリンジ(エポエチンベータ)	12,000 国際単位/本	エリスロポエチン製剤	中外
エリル注 S(塩酸ファスジル水和物)	30mg/2mL/A	蛋白リン酸化酵素阻害剤	旭化成ファーマ
セファメジン キット(セファゾリンナトリウム水和物)	1g/キット	合成セファロスポリン製剤	藤沢
タキソテール注(ドセタキセル水和物)	20mg/0.5mL/V	抗悪性腫瘍剤	アベンティスファーマ
プロジフ静注液(ホスフルコナゾール)	200mg/2.5mL/V	深在性真菌症治療剤	ファイザー
ベガシス皮下注(ベグインターフェロンアルファ-2a)	180mg/1mL/V	インターフェロン製剤	中外
メディジェクト K(塩化カリウム)	1.491g(20mEq)/20mL/筒	電解質補正用製剤	テルモ

## 院内採用中止医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
クリキシバンカプセル(硫酸インジナビルエタノール付加物)	200mg/Cp	HIV プロテアーゼ阻害剤	萬有
ノイチーム錠(塩化リゾチーム)	90mg/錠	消炎酵素剤	エーザイ
ベイスン錠(ボグリボース)	0.2mg/錠	糖尿病食後過血糖改善剤	武田
ミナルフェン錠(アルミノプロフェン)	200mg/錠	鎮痛・抗炎症・解熱剤	マルホ
ムコダイン錠(カルボシステイン)	250mg/錠	気道粘液調整・粘膜正常化剤	杏林
“化血研”ガンマ - グロブリン(人免疫グロブリン)	1,500mg/10mL/V	人免疫グロブリン製剤	アルフレッサファーマ
セフォペラジン注射用(セフォペラゾンナトリウム)	1g/V	セフェム系抗生物質製剤	大正富山

在庫がなくなり次第，処方中止とします。

## 院内採用中止医薬品(販売中止)

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
点滴用キシロカイン 10%(塩酸リドカイン)	1,000mg/10mL/A	抗不整脈剤	アストラゼネカ

在庫がなくなり次第，処方中止とします。

## 製剤変更医薬品

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
テルシガンエロゾル*	テルシガンエロゾル 100μg 5mL/本(代替フロノン製剤に変更)	気管支収縮抑制剤	ベーリンガー
メイアクト小児用細粒**	メイアクトMS小児用細粒 100mg/g(カゼイン無添加製剤に変更)	セフェム系抗生物質製剤	明治

\* 在庫がなくなり次第，処方変更とします。

\*\* 12月3日より，処方変更とします。

## 院外採用医薬品(追加分)

医薬品名(成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
グリミクロン HA 錠(グリクラジド)	20mg/錠	経口血糖降下剤	大日本
セレニカ R 錠(バルプロ酸ナトリウム)	200mg/錠	抗てんかん剤・躁状態治療剤	日研化学
フォスブロック錠(塩酸セベラマー)	250mg/錠	高リン血症治療剤	キリンビール
ミヤ BM 錠(宮入菌末)	20mg/錠	生菌製剤	ミヤリサン
メトリジン D 錠(塩酸ミドドリン)	2mg/錠	Ⅰ選択型低血圧治療剤	大正富山
ガチフロ点眼液(ガチフロキサシン水和物)	{0.3%} 5mL/本	広範囲抗菌点眼剤	千寿
セレベント 50 ディスカス(キシナホ酸サルメテロール)	60 プリスター/キット	長時間作動型吸入気管支拡張剤	グラクソ・スミスクライン
エビペン注射液(エピネフリン)	2mg/2mL/管	アナフィラキシー補助治療剤	メルク
ナルデイトロピンナルディフレックス注(ソマトロピン)	5mg, 10mg/1.5mL/筒	ヒト成長ホルモン製剤	ノボ・ナルディスクファーマ

## 新規院内処方医薬品について

\* 塩酸アミオダロン Amiodarone Hydrochloride

【商】アンカロン Ancaron

サノフィ・サテラボ

内用：錠剤<sup>㊞</sup> 1錠中 100mg

【警】 施設の限定：本剤の使用は致死的不整脈治療の十分な経験のある医師に限り、諸検査の実施が可能で、救急時にも十分に対応できる設備の整った施設でのみ使用すること。患者の限定：他の抗不整脈薬が無効か、又は副作用により使用できない致死的不整脈患者にのみ使用すること。患者への説明と同意：本剤の使用に当たっては、患者又はその家族に本剤の有効性及び危険性を十分説明し、可能な限り同意を得てから、入院中に投与を開始すること。

副作用に関する注意：本剤を長期間投与した際、本剤の血漿からの消失半減期は 19～53 日と極めて長く、投与を中止した後も本剤が血漿中及び脂肪に長期間存在するため、副作用発現により投与中止、あるいは減量しても副作用はすぐには消失しない場合があるので注意すること。相互作用に関する注意：本剤は種々の薬剤との相互作用（相互作用の項参照）が報告されており、これらの薬剤を併用する場合、また本剤中止後に使用する場合にも注意すること。

【禁】重篤な洞不全症候群のある患者、2 度以上の房室ブロックのある患者、本剤に対する過敏症の既往歴のある患者、リトナビル・メシル酸ネルフィナビル・スパルフロキサシン・塩酸バルデナフィル水和物を投与中の患者

【効】生命に危険のある下記の再発性不整脈で他の抗不整脈薬が無効か、又は使用できない場合：心室細動、心室性頻拍、肥大性心筋症に伴う心房細動

【用】〔導入期〕1 日 400mg を 1～2 回に分割投与する（1～2 週間）。〔維持期〕1 日 200mg を 1～2 回に分割投与する。

【副】間質性肺炎、肺線維症、肺炎、既存の不整脈の悪化、Torsades de pointes、心不全、徐脈、心停止、完全房室ブロック、血圧低下、肝障害、肝硬変、成人性呼吸困難症、性欲減退、睡眠障害、不眠症、味覚異常、臭覚異常、悪心・嘔気、嘔吐、便秘、食欲不振、胃部不快感、

舌アフタ形成、QT 延長、房室ブロック、洞機能不全、脚ブロック、開胸手術中・心肺バイパス中止後の血圧低下、肺機能異常、胸部 X 線異常、喘息、白血球減少、好酸球増加、好中球減少、ヘモグロビン・ヘマトクリット値上昇・低下、白血球増多、血小板減少、血液凝固異常、甲状腺機能低下症、甲状腺機能検査値異常、甲状腺機能亢進症、潮紅、流涎、振戦、頭痛、不随意運動、協調運動低下、歩行障害、運動失調、めまい、知覚異常、頭蓋内圧亢進、皮疹、光線過敏症、手指爪変色、脱毛、日光皮膚炎、皮膚青色化、紫斑、皮膚血管炎、角膜色素沈着、視覚暈輪、羞明、眼がかすむ、視神経炎、AST・ALT・Al-P・LDH・LAP・ $\gamma$ -GTP・総ビリルビン上昇、BUN・クレアチニン上昇、血清 Na 低下、尿酸上昇・低下、血清 Na 上昇、血清電解質上昇・低下、尿蛋白、尿糖、尿ウロビリノーゲン・尿 pH 異常、手指の浮腫、全身倦怠、女性化乳房、CK 上昇、コリンエステラーゼ上昇・低下、疲労、副睾丸炎

【妊】回避 【授】授乳回避

【小】未確立

【貯】遮光

\* ボグリボース Voglibose

【商】ベースン OD Basen OD 武田

内用：錠剤 1錠中 0.2mg

【禁】重症ケトーシス・糖尿病性昏睡又は前昏睡の患者、重症感染症・手術前後・重篤な外傷のある患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効】糖尿病の食後過血糖の改善（ただし、食事療法・運動療法を行っている患者で十分な効果が得られない場合、又は食事療法・運動療法に加えて経口血糖降下剤もしくはインスリン製剤を使用している患者で十分な効果が得られない場合に限る）

【用】1 回 0.2mg を 1 日 3 回毎食直前に投与する。効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら 1 回量を 0.3mg まで増量することができる。

【副】低血糖、腸閉塞様症状、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、意識障害を伴う高アンモニア血

症 下痢，軟便，腹鳴，腹痛，便秘，食欲不振，  
悪心，嘔吐，胸やけ，口内炎，口渇，味覚異常，  
腸管嚢胞様気腫症，発疹，癢痒，光線過敏症，  
AST・ALT・LDH・ $\gamma$ -GTP・Al-P 上昇，頭痛，め  
まい，ふらつき，眠気，貧血，血小板減少，し  
びれ，顔面等浮腫，眼のかすみ，ほてり，倦怠  
感，脱力感，高カリウム血症，血清アミラーゼ  
上昇，HDL コレステロール低下，発汗，脱毛  
【妊】未確立，有益のみ  
【授】回避，やむを得ない場合は授乳回避  
【小】未確立

\* カルボシステイン Carbocisteine

【商】ムコダイン Mucodyne 杏林

内用：錠剤 1錠中 500mg

【効】〔成人・小児〕 下記疾患の去痰：上気  
道炎（咽頭炎，喉頭炎），急性気管支炎，気管  
支喘息，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核  
慢性副鼻腔炎の排膿

【用】成人に1回 500mg を1日3回投与する。

【副】Stevens-Johnson 症候群，Lyell 症候群，  
肝機能障害，黄疸 食欲不振，下痢，腹痛，悪  
心，嘔吐，腹部膨満感，口渇，発疹，湿疹，紅  
斑，癢痒感

【妊】未確立，回避

【商】六君子湯 ツムラ

内用：顆粒剤（1包 2.5g）7.5g 中乾燥エキス  
4.0g（ソウジュツ 4.0g，ニンジン 4.0g，ハンゲ  
4.0g，ブクリョウ 4.0g，タイソウ 2.0g，チンピ  
2.0g，カンゾウ 1.0g，ショウキョウ 0.5g）

【効】胃腸の弱いもので，食欲がなく，みぞお  
ちがつかえ，疲れやすく，貧血性で手足が冷え  
やすいものの次の諸症：胃炎，胃アトニー，胃  
下垂，消化不良，食欲不振，胃痛，嘔吐

【用】1日 7.5g を2~3回食前又は食間に分割投  
与する。

【副】偽アルドステロン症，ミオパシー 発疹，  
蕁麻疹，悪心，腹部膨満感，下痢

【妊】未確立，有益のみ

【小】未確立

【貯】遮光

\* 硫酸フラジオマイシン Fradiomycin Sulfate

【商】ソフラチュール帯 Sofratulle

アベンティスファーマ

外用：貼付剤 1枚（10×30cm）中 32.4mg

【禁】ストレプトマイシン・カナマイシン・ゲ  
ンタマイシン・フラジオマイシン等のアミノグ  
リコシド系抗生物質及びバシトラシンに対し過  
敏症の既往歴のある患者

【効】外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，び  
らん・潰瘍の二次感染

【用】1~数枚を直接患部に当て，その上を無菌  
ガーゼで覆う。

【副】腎障害，難聴 発疹，接触性皮膚炎

【妊】未確立，有益のみ

\* シタラビン Cytarabine

【商】キロサイド N Cylocide N 日本新薬

注射：液剤<sup>㉑</sup> 1管（20mL）中 400mg

【警】〔シタラビン大量療法〕 シタラビン大  
量療法（以下，本療法）は高度の危険性を伴う  
ので，投与中及び投与後の一定期間は患者を入  
院環境で医師の管理下に置くこと。また，緊急  
医療体制の整備された医療機関において白血病  
の治療に十分な知識と経験を持つ医師（同種骨  
髄移植療法の経験のある医師等）のもとで行う  
こと。本療法施行にあたっては，患者又はそ  
の家族に有効性及び危険性を十分に説明し，同  
意を得てから投与を開始すること。本療法は  
強い骨髄機能抑制作用を有する療法であり，本  
療法に関連したと考えられる死亡例が確認され  
ている。本療法を施行したすべての患者に強い  
骨髄機能抑制が起こり，その結果致命的な感染  
症及び出血等を惹起することがあるので，本療  
法施行にあたっては，感染予防として無菌状態  
に近い状況下（無菌室，簡易無菌室等）で治療  
を行う等，十分注意すること。感染症あるいは  
出血傾向が発現又は増悪し，致命的となるこ  
とがあるので，本療法施行時に骨髄が低形成あ  
るいは前治療又は他の薬剤による骨髄機能抑制  
を起こしている患者では，治療上の有益性が危  
険性を上回ると判断されるとき以外は施行しな  
いこと。本療法により白血球（好中球）数が  
減少しているとき，38 以上あるいはそれ未満  
でも悪寒・戦慄を伴う発熱をみた場合には感染  
症を疑い，血液培養により感染菌の同定を試み

るとともに、直ちに十分な種類・量の広域抗菌剤を投与すること。本療法施行にあたっては、「禁忌」、「慎重投与」、「重要な基本的注意」の項を参照し、慎重に患者を選択すること。

【禁】本剤に対する重篤な過敏症の既往歴のある患者、重篤な感染症を合併している患者 骨髄機能抑制のある患者

【効】[シタラピン大量療法]再発又は難治性の下記疾患：急性白血病（急性骨髄性白血病，急性リンパ性白血病），悪性リンパ腫 急性リンパ性白血病及び悪性リンパ腫については他の抗腫瘍剤と併用する場合に限る。

【用】[シタラピン大量療法] 急性骨髄性白血病：成人には、1回  $2\text{g}/\text{m}^2$ を5%ブドウ糖液あるいは生理食塩液に混合して300~500mLとし、12時間毎に3時間かけて点滴で最大6日間連日静脈内投与する。小児に投与する場合には、1回  $3\text{g}/\text{m}^2$ を12時間毎に3時間かけて点滴で3日間連日静脈内投与する。急性リンパ性白血病：成人には、他の抗腫瘍剤と併用し、1回  $2\text{g}/\text{m}^2$ を5%ブドウ糖液あるいは生理食塩液に混合して300~500mLとし、12時間毎に3時間かけて点滴で最大6日間連日静脈内投与する。小児に投与する場合には、他の抗腫瘍剤と併用し、1回  $2\text{g}/\text{m}^2$ を12時間毎に3時間かけて点滴で3日間連日静脈内投与する。悪性リンパ腫：成人には、他の抗腫瘍剤と併用し、シタラピンとして1回  $2\text{g}/\text{m}^2$ を5%ブドウ糖液あるいは生理食塩液に混合して300~500mLとし、1日1~2回3時間かけて点滴で1~2日間（最大2回）連日静脈内投与する。小児に投与する場合には、他の抗腫瘍剤と併用し、シタラピンとして1回  $2\text{g}/\text{m}^2$ を12時間毎に3時間かけて点滴で3日間連日静脈内投与する。

【副】骨髄機能抑制，ショック，シタラピン症候群，急性呼吸促迫症候群，間質性肺炎，高ビリルビン血症を伴う肝障害，不整脈，心不全，消化管障害，中枢神経系障害，肝膿瘍，急性膵炎，肺浮腫，有痛性紅斑 脱毛，発疹，頭痛，活動低下，傾眠，言語障害，めまい，知覚不全，末梢神経障害，食欲不振，嘔気，嘔吐，下痢，口内炎，血便，イレウス，しゃっくり，舌痛，肛門周囲炎，腹痛，ALT・AST・LDH・ビリルビン上昇，肝機能異常，ALP・ $\gamma$ -GTP 上昇，電解質

異常，血中尿酸上昇・低下，頻脈，低血圧，ECG 異常，高血圧，心膜炎，フィブリノーゲン増加，凝固時間延長・短縮，FDP 増加，DIC，血痰，出血，BUN 上昇・低下，尿糖陽性，クレアチニン上昇，尿蛋白陽性，尿潜血，尿円柱，尿中結晶，腎機能異常，倦怠感，発熱，CRP 上昇，低蛋白血症，結膜炎，体重増加・減少，CK 上昇・低下，感染，敗血症，ウロビリノーゲン陽性，薬物性発熱，筋肉痛，胸膜炎，腹水，IgG 減少，血栓性静脈炎，頸部浮腫，顔面浮腫

【妊】回避 【授】未確立，授乳中止

\*インフリキシマブ Infliximab

【商】レミケード Remicade 田辺

注射：(●) 1瓶中100mg

【警】本剤投与により、結核、敗血症を含む重篤な感染症及び脱髄疾患の悪化等が報告されており、本剤との関連性は明らかではないが、悪性腫瘍の発現も報告されている。本剤が疾病を完治させる薬剤でないことも含め、これらの情報を患者に十分説明し、患者が理解したことを確認した上で、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。また、本剤の投与において、重篤な副作用により、致命的な経過をたどることがあるので、緊急時に十分に措置できる医療施設及び医師のもとで投与し、本剤投与後に副作用が発現した場合には、主治医に連絡するよう患者に注意を与えること。感染症 重篤な感染症：敗血症，真菌感染症を含む日和見感染症等の致死的な感染症が報告されているため、十分な観察を行うなど感染症の発症に注意すること。結核：播種性結核（粟粒結核）及び肺外結核（髄膜，胸膜，リンパ節等）を含む結核が発症し、死亡例も報告されている。結核の既感染者では症状の顕在化及び悪化のおそれがあるため、本剤投与に先立って結核に関する十分な問診，胸部レントゲン検査及びツベルクリン反応検査を行い，適宜胸部CT検査等を行うことにより，結核感染の有無を確認すること。また，結核の既感染者には，抗結核薬の投与をした上で，本剤を投与すること。本剤投与に関連する反応 Infusion reaction：本剤投与中あるいは投与終了後2時間以内に発現するinfusion reactionのうち、重篤なアナフィラキシー様症状（呼吸困

難，気管支痙攣，血圧上昇，血圧低下，血管浮腫，チアノーゼ，低酸素症，発熱，蕁麻疹等）が報告されている。本剤は緊急時に十分な対応のできる準備をした上で投与を開始し，投与終了後も十分な観察を行うこと。また，重篤な infusion reaction が発現した場合には，本剤の投与を中止し，適切な処置を行うこと。遅発性過敏症（再投与の場合）：本剤投与後 3 日以上経過後に重篤なものを含む遅発性過敏症（筋肉痛，発疹，発熱，多関節痛，痒痒，手・顔面浮腫，嚥下障害，蕁麻疹，咽頭痛，頭痛等）が発現している。これは本剤投与後 2～4 年あけて再投与を行う臨床試験において報告されている。投与後 14 週～2 年間あけて再投与を受けた患者のデータは少ないため，14 週以上あけて再投与する場合には遅発性過敏症の発現に備え，十分な観察を行うこと。脱髄疾患の臨床症状及び/又は画像診断上の悪化が，本剤を含む TNF 抑制作用を有する薬剤でみられたとの報告がある。脱髄疾患（多発性硬化症等）及びその既往歴のある患者には投与しないこととし，脱髄疾患を疑う患者や家族歴を有する患者に投与する場合には，適宜画像診断等の検査を実施するなど，十分な観察を行うこと。関節リウマチ患者では，本剤の治療を行う前に，非ステロイド性抗炎症剤及び他の抗リウマチ薬等の使用を十分勘案すること。また，本剤についての十分な知識とリウマチ治療の経験をもつ医師が使用すること。

【禁】重篤な感染症（敗血症等）の患者，活動性結核の患者，本剤の成分又はマウス由来の蛋白質（マウス型，キメラ型，ヒト化抗体等）に対する過敏症の既往歴のある患者，脱髄疾患（多発性硬化症等）及びその既往歴のある患者，うっ血性心不全の患者

【効】関節リウマチ（既存治療で効果不十分な場合に限る） 次のいずれかの状態を示すクローン病の治療（既存治療で効果不十分な場合に限る）：中等度から重度の活動期にある患者，外瘻を有する患者

【用】関節リウマチ：3mg/kg を 1 回の投与量とし点滴静注する。初回投与後，2 週，6 週に投与し，以後 8 週間の間隔で投与を行うこと。本剤は，メトトレキサート製剤による治療に併用して用いること。クローン病（中等度から重

度の活動期にある患者）：5mg/kg を 1 回点滴静注する。クローン病（外瘻を有する患者）：5mg/kg を 3 回（初回，2 週後，6 週後）点滴静注する。

【副】敗血症，肺炎，真菌感染症，結核，アナフィラキシー様症状，間質性肺炎，遅発性過敏症，抗 dsDNA 抗体の陽性化を伴うループス様症候群，白血球・好中球減少 頭痛，浮動性めまい・回転性眩暈，錯感覚，不眠症，頭重感，眠気，ふらふら感，不随意性筋収縮・ジスキネジー，感覚鈍麻，片頭痛，傾眠，味覚倒錯，失神，知覚過敏，多幸症，錯乱，不安，うつ病，頭部不快感，多発性硬化症，視神経炎，ギランバレー症候群，ニューロパシー，てんかん発作，多発性神経障害，横断性脊髄炎，白血球数増加，白血球分画異常，LDH・Al-P・総コレステロール上昇，白血球数減少，血小板数増加・減少，K 低下，貧血，鉄欠乏性貧血，溶血性貧血，総蛋白上昇，総蛋白低下，汎血球減少症，特発性血小板減少性紫斑病，血栓性血小板減少性紫斑病，血圧上昇，ほてり，潮紅，血圧低下，動悸，頻脈，斑状出血・血腫，脳梗塞，末梢性虚血，点状出血，上気道感染，鼻炎，咽頭炎，下気道感染，気管支炎，肺浸潤，気道感染，喀痰増加，咳嗽，呼吸困難，副鼻腔炎，感冒，咽頭痛，気管支痙攣，胸膜炎，鼻出血，鼻汁，間質性肺繊維症・間質性肺臓炎，AST・ALT・ $\gamma$ -GTP 上昇，肝腫大，尿潜血，尿沈渣，尿路感染，BUN 上昇，尿蛋白，尿糖，頻尿，血清クレアチニン上昇，腎盂腎炎，血尿，悪心，下痢，腹痛，消化不良，潰瘍性口内炎，嘔吐，鼓腸，食欲不振，便秘，口内乾燥，口腔内痛，食欲亢進，胃食道逆流，腸管閉塞，腸管狭窄，胃痛，胃部不快感，発疹，皮疹，斑状皮疹，皮膚炎，斑状丘疹状皮疹，膿疱性皮疹，毛包炎，紅斑性皮疹，紅斑，乾癬様皮疹，小水疱性皮疹，痒瘡，丘疹性皮疹，血管炎性皮疹，皮膚病変，痒痒症，蕁麻疹，多汗，真菌性皮膚炎・爪真菌症，湿疹・脂漏，皮膚乾燥，ひび，脱毛症，水疱性皮疹，皮膚潰瘍形成，皮膚変色，麦粒腫，発赤，白癬，注射部位炎症・疼痛・斑状出血・浸潤・痒痒感・腫脹，視覚異常，結膜炎，眼内炎，眼球乾燥，羞明，緑内障，筋痛，関節痛，関節炎，骨痛，背部痛，ウイルス感染，単純ヘルペス，帯状疱疹，インフルエンザ，インフルエンザ症候群，インフル

エンザ様症候群，膿瘍，モニリア症，過敏症状，  
蜂巣炎，リンパ節症，抗核因子検査・抗 DNA 抗  
体・カルジオリピン抗体陽性，細菌感染，免疫  
グロブリン増加，非定型マイコバクテリア感染，  
クリプトコッカス症，ニューモシスティス症，  
サルモネラ症，発熱，疲労感，胸痛，浮腫，顔  
面浮腫，末梢性浮腫，頸部腫脹，疼痛，悪寒，  
体重増加，耳の障害，耳鳴，外耳炎，耳炎，耳  
垢，倦怠感，眼窩周囲浮腫，白帯下，熱感，耳  
閉感

【妊】有益のみ 【授】未確立，授乳中止

【小】未確立

【貯】2～8